

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	水道施設見学会関係事務			事業コード	1167
所属コード	902500	課等名	上下水道局経営企画課	係名	企画係
課長名	石橋 俊一	担当者名	飯富 理恵	内線番号	6233
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	いつでも信頼される上水道事業の推進	コード	5
	基本事業	給水サービスの向上	コード	2
予算費目名	水道事業会計 1 款 1 項 80 目 総係費 (000-00)			
特記事項				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 昭和 38 年度
根拠法令等				

(2) 事務事業の概要

水道施設の市民向け見学会を開催する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

市民に水道事業に対する理解と関心を深めてもらうことを目的として始めた。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

ライフスタイルの多様化や健康志向、食の安全に対する関心の中で水道使用者の価値観も大きく変化しており、これまで以上に積極的な情報公開が必要となっている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

盛岡市民

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 見込み
A 盛岡市民	人	298,148	298,853	298,853	299,220	
B						
C						

(3) 24 年度に実施した主な活動・手順

- ①広報紙，ホームページ等による参加者募集（各日定員45名）
- ②見学会の実施
 - ・新庄浄水場及び米内浄水場，水質管理センターの見学
 - ・DVD上映，水道水あてっこクイズ
 - ・相談コーナー，パッキン交換実演
 - ・応急給水資機材等展示
- ③参加者アンケート

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 施設見学会応募者数	人	163	-	90	103	90
B 施設見学会参加者数	人	86	-	90	78	90
C 見学会の実施日数	日	2	-	2	2	2

※平成 23 年度は東日本大震災の影響により中止

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

より多くの市民に水道事業に対する理解と関心を深めてもらう。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 盛岡市民のうち，理解を深めた人の割合 水道施設見学会参加者数/盛岡市の人口	☐ 上げる ☐ 下げる ☒ 維持	%	0.029	-	0.030	0.026	0.030
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

※平成 23 年度は東日本大震災の影響により中止

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①	千円				
	②県	千円				
	③地方債	千円				
	④一般財源	千円	0	-	0	0
	⑤その他（ ）	千円	163	-	199	137
	A 小計 ①～⑤	千円	163	-	199	137
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	220	-	220	220

	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	880	-	880	880
計	トータルコスト A+B	千円	1,043	-	1,079	1,017
備考 平成 23 年度は東日本大震災の影響により中止						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている

理由：市民に水道事業に対する理解と関心を深めてもらうことは、水道事業の円滑な運営のために必要不可欠である。

② 市の関与の妥当性

妥当である

理由：水道の施設公開及び情報提供は、上下水道局が責任を持って行うことが妥当である。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である

理由：水道事業の対象は盛岡市民であり、対象は妥当である。

④ 廃止・休止の影響

影響がある

内容：水道事業の理解に繋がる貴重な事業であり、震災といった特殊な事情を除き、廃止・休止することは妥当ではない。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

向上余地がある

内容：環境問題など、時代のニーズに併せて毎年内容を見直すことが可能である。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

・受益機会の適正化余地

公平・公正である

理由：広報もりおかやホームページ等で市民全員を対象として参加募集を実施しており、公平・公正である。

・費用負担の適正化余地

適正化余地がある。

理由：事業費の一部を参加者負担とすることは考えられるが、応募者数が減少する恐れがある。

(4) 効率性評価

・事業費の削減余地

削減できない

理由：現在の成果の維持のためには、必要最低限の経費である。

- ・人件費の削減余地

削減できない

理由：現在の成果の維持のためには、必要最低限の経費である。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

アンケートの結果をみると、参加者の評価は高い。

現状維持が妥当であるが、幅広い年齢層のニーズに応えられるよう更なる工夫が必要である。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

限られた時間のなかで全てのニーズに応えることは困難であり、メニューの選択が難しい。参加者等の意見をさらに細かく分析することで克服していく。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

市の水道事業について理解と関心を深めてもらうため、重要な事業であり、参加者の満足度も高い事業である。今後も部内各課の協力を得て、充実した内容にするための検討を続ける。